

令和7年度 第4回恵那市社会教育委員会 会議録

開催日時：令和7年11月21日（金）

午後2時00分～午後4時25分

開催場所：佐藤一斎学びのひろば

■会議次第

1. 開会あいさつ
2. 社会教育委員長あいさつ
3. 議題
 - (1) 令和7年度第3回社会教育委員会会議録の承認について
 - (2) 第6期家庭教育支援計画（素案）の審議
4. その他
 - ・東海北陸社会教育研究大会岐阜大会の報告について
日時 10月3日（金）
会場 ココロかさなるCCNセンター（瑞穂市）
5. 佐藤一斎学びのひろば視察研修
6. 閉会

次回日程

日時：令和8年1月14日（水）午後1時30分～

場所：恵那市役所会議棟大会議室

内容：第6期家庭教育支援計画（案）の審議

・出席者の数：社会教育委員14人中9人、事務局3人（以下のとおり）

社会教育委員

	役職	氏名	選出団体等	出欠
1	委員	山田 恵市	文化振興会	出席
2	委員	森川 伸江	保育士・幼稚園教諭経験者	出席
3	委員	高草 環	図書館サポーターえな	出席
4	委員	篠原 正幸	青少年育成市民会議	欠席
5	委員	山内 正一	学識経験者	出席
6	委員	相原 正文	学識経験者	出席
7	委員	柘植 俊夫	民生委員児童委員協議会	出席
8	委員	小林 英文	壮健クラブ連合会	欠席
9	委員	後藤 光男	NPOまちづくり団体	欠席
10	委員	田口 容子	放課後子ども教室コーディネーター	出席

11	委員	各務 周和子	保育士・幼稚園教諭経験者	出席
12	委員	堀井 洋行	恵那ライオンズクラブ	出席
13	委員	阪上 美代子	スポーツ推進委員連絡協議会	欠席
14	委員	山内 峰子	校長会代表（三郷小学校長）	欠席

事務局

1	教育長	岡田 庄二	恵那市教育委員会	欠席
2	次長兼課長	柄澤 史枝	恵那市教育委員会 社会教育課	出席
3	管理官	伊東 将昭	社会教育課	出席
4	主幹	遠山 直美	〃 文化振興係	欠席
5	係長	水野 まどか	〃 三学運動推進係	欠席
6	社会教育指導員	丸山 眞理子	〃 三学運動推進係	出席
7	社会教育指導員	太田 礼子	〃 三学運動推進係	欠席

1. 開会あいさつ

（事務局）皆さんこんにちは。第4回社会教育委員会を始めさせていただきます。今日は会場を佐藤一斎學びのひろばにさせていただきました。ここセミナールームは施設の中央にあたり、両面ガラス張りで開放的であり、外からも中の様子がうかがえます。学んでいる様子を見られる作りとなっています。それでは次第に沿って進めさせていただきます。開会あいさつを柄澤課長お願いします。

（課長）皆さんこんにちは。今日は岩村までお越しいただき、新しい施設で行います。後で施設も見ていただきたいと思います。会議の方よろしくお願いします。今年度計画策定を進めてきましたけれども、時間があるようでなく、部会を2回やりまして、皆さんの意見を入れ込んだものを、パブリックコメントをしていくということで、結構後が詰まっているなど感じています。今日はその新しい計画に部会の意見を入れ込んだものに、皆さんの意見をいただきます。よろしくお願いいたします。

（事務局）それでは山田社会教育委員長からご挨拶をいただきます。

2. 社会教育委員長あいさつ

（委員長）こんにちは。私は縁があってこの部屋に入るのが4回目ですけども、また来たいと思うところです。この場所が生涯学習の1つの拠点となると思っております。東濃大会の発表と東海大会の発表、昨年度から取り組んできたものを発表でき、一区切りと思っています。今日のメインとなります「家庭教育支援計画」が今年度の最後の仕上げとなって、この会で審議をして議会への報告へ繋げて行くということです。お力をお貸してください。

事務局）ありがとうございます。では次第をご覧ください。本日の委員会の構成をお伝えします。2つの構成になっています。先に議題に入らせていただき、第6期家庭教育支援計画の素案にご意見をいただく時間をとります。その他で東海北陸大会の報告をい

ただき、その後、佐藤一斎學びのひろばを視察いただきます。限られた時間ですが活発なご意見ををお願いします。

3. 議題

(事務局) 委員長には議長として進行をお願いします。

(1) 令和7年度第3回社会教育委員会会議録の承認について

(委員長) 議事録につきまして、何かありましたら事務局へお申し出ください。それにおいて承認とさせていただきます。

(2) 第6期家庭教育支援計画(素案)の審議

(委員長) 前回の意見、策定部会の意見、その2つを合わせて、更新前の文書と更新後の文書を見比べていきます。まず、(1)の「家庭を取り巻く現状」で、前の支援計画では、3段階になっていましたが、「価値観が多様化した、ツールが多くなってきた、格差への配慮、関わり方」という4段階になっています。これを見て分かりにくいなどありましたらご意見ををお願いします。

(柘植委員) 真ん中13行目あたりの「金銭面での余裕の違いが」と書かれていますが、引っかけります。具体的にどういうことを指しているのか。文章にするにはストレート過ぎないかと思えます。「経済的に」などの言い回しにした方がよいのではないのでしょうか。他は、現状に合わせて変わっているということでもいいと思えます。

(委員長) 支援計画の中に文字に残すには誤解のないような、わかりやすい表現にしてはというご意見です。代替りの言葉も言ってもらいましたがいかがでしょうか。

(山内委員) 「育児」と「子育て」は使い分けていますか。真ん中16行目あたりの「子育てと向き合い」と「参加意欲が高い」は並列でしょうか。「育児…と男性…との関わり」というところも分かりにくいです。また、「出てこられない」とは、誰がどこへ出てこられないのか分かりにくいなと思いました。

(相原委員) 今の意見の中で、2段落目では孤立化ということが出ています。「孤立や理解不足から不安を感じる場面もあります」ということで、具体的な「場面」というと、保護者で出やすいご家庭と出にくいご家庭があり、出にくい家庭のことをどうやって表すかということです。何に出ていくか、学校の行事、学童、放課後子ども教室など、居場所に出ていけるというか。2段落目と3段落目は繋がっているんですね？

(副委員長) そういうことを言っているんですが、「場面」ではないかもしれません。

(事務局) 山内委員さんと相原委員さんのご指摘について、答えになっているかわかりませんが、1段落目に「育児と仕事」という言葉が出てきます。「子育て」と同じような言葉ですが、仕事と対比する言葉として使っているという解釈になります。3段落目の「保護者間・・・子育てと向き合い、参加意欲の高い父親も増えています」とあります。つなげて父親のことも書いています。出てこられない、声にしにくい保護者というのは、先ほど相原委員からもありましたが、市の健診とか〇〇教室とか、他の保護者と触れ合う機会に出てこられないと、周りに不安とかの声を出せない。そういうところでどうやってアプローチしていくのか、という意見が部会でもありましたので、その表現

となります。

(委員長) そういう風に伝わるように、文章の修正をお願いします。出られない人なのか、出たくても来られない人なのか、説明をしていただければ。

(高草委員) 父親に重きを置いているように感じます。

(事務局) 「出てこられない」とか「声に」というのは父親に限らずです。

(委員長) 読むと、父親と母親が同じ立場でなければならないので、ふたりで出てきてもいいし、交代で来てもいい。策定部会で「父親が出てきてくれることが増えてきて意識が変わってきたということを良さとして捉えてみましょう。」と話があり、こういう表現としましたが、父親と母親と一緒にということがいいかもしれません。

(副委員長) ただ、昔は、子育ては母親任せということが強く出ていましたが、今は園の送迎にも、〇〇教室にしても、父親が出てくるようになり、「母親ばかりが担ってないよ」とポジティブに変化してきていることを表したいという声も多くありました。策定部会での意見をまとめてもらったので、参加している身としては、すんなり読めます。ただし、社会教育委員会は表現についても修正する場なので伺っていくといいかと思えます。

(委員長) 「増えています」というのは事実として区切り、「今後は、祖父母も両親も来てもいい」という形を作っていく、「より多くの方が関心を持ってもらえる体制づくりに努めたい」という表現に変えてはどうでしょうか。

(副委員長) 園行事にしても〇〇学級にしても、興味関心のある方はどこに行っても出てきています。同じ顔をよく見かけます。けれど、本当に伝えたいのは、そこまで足を運ばない人たち、声を出せない人たちに今後目を向けていきたいという意味です。皆に手が届くような。ストレートに「出てこられない人たち」と書いていますが、いい表現があれば教えてください。

(柘植委員) 「出てきたくない人」というのはどうなのでしょう。

(副委員長) いや、出てきたくない人も入れるんですが、今、園の送迎にしても、しゃべりたいと思う人は忙しくてすぐ帰ってしまうことが多い。話が届きにくい人たちは、経済的なこと、時間の余裕、家族的なことなどいろんなことが絡んでいるかもしれないし、子育てへの興味関心が薄い人もいるかもしれない。そんな人たちをひっくるめて、声をもっと届けたい人たちに目を向けたいと思います。

(堀井委員) 付け足したらどうでしょう。「今後は、出てきたいけれど出てこられない人や話したいけど声にできない人を支援したい」と。ズバリ書くと誰にでも分かりやすいと思います。

(副委員長) 興味関心に差があります。少子化の今、関心が薄い人にも伝えて、今いる子どもたちを大切にしたいです。

(相原委員) 3段落目にある「すべての」は書かなくていいのでは。

(副委員長) 策定部会で出た意見を事務局が拾ってくれたので、書かれています。

(相原委員) 現状として受け止めるということでもいいですね。

(委員長) 「様々な人に対する多様性への配慮が重要です」とあるので、結局のところ、「今後はより多くの保護者への支援が重要である」という言いまわしでいかがでしょう

か。男性が増えてきている事実を伝え、より多くの人に参加できる支援体制を整えることで、今出てきている人もより出やすくなり、出てきていない人も出やすくなる。そういう体制づくりという風にとらえてはどうでしょうか。言い回しが難しいですが。父親についてずっと言っているわけではありません。

(事務局) そのあたりが分かるように考えてみます。

(山内委員)「保護者間では・・・向き合っています。また、父親の参加意欲も高まっています。」にしてはどうですか。

(事務局) 全てを包括できればいいですが、「そうでない方々にも目を向けて手を差し伸べていきたい」を表したいと考えています。

(委員長) キーワードは、親については「親育ち」、子どもについては「子育て」となっています。これを「親育ち」「子育て」とするのか、「子育て」は「子育て」とするのか、合わせていきたいと思えます。12月11日に策定部会が開催されます。ここまでの話し合いを盛り込んでお伝えしてよろしいでしょうか。(異議なし。)

表についてです。学童期でも幼児期のような子もいるし中学生でも小学生のような子もいるしその逆もいる。表を縦に決めつけて見るのではなく縦にも横にも柔軟に見ていくという形にしています。

(相原委員)「笑顔」と「費用」という文言。言いたいことに何か意図があったと思うが説明をしてもらえますか。

(副委員長) 親が子にできるものは笑顔が最大のプレゼントとなる。授乳中でも話を聞く時でも、スマホではなく子どもには笑顔を見せてほしい。しつけとかの前に子どもを支えることになると思う。「どこでも 誰でも みんなができる」やさしい育児だと思えます。

(相原委員) 自分のことをふりかえるといかんですね。

(委員長) いろいろな発達段階もあるが、お腹にいる時も生まれてくることを楽しみにして、これらの大前提としての「笑顔」という意味です。

(相原委員) そういう意味での「笑顔」ならば「費用」が引っかかります。

(山内委員) 言いたいことは分かりますが、「費用」は取ったほうがいいです。「いつでも」「だれでも」「どこでも」できると書けばいいのではないのでしょうか。

(委員長)「郷土愛が大事」の後は、「また」か「さらに」か文章的にはどちらがよいでしょうか。

(山内委員)「さらに」を「家庭内では」にしてはどうでしょうか。「笑顔はいつでもだれでもどこでもできる、親子や家庭内の交流を温かくする」にしましょう。

(副委員長) ありがとうございます。

(委員長) いいですね。次、表を見てもらうと、線をとってあります。個人差がある中で、成長の度合いも違うでしょうし。作業部会で出た意見ですね。

(事務局) 表は、ステージに分けていますが、成長によって違ってくるので、あまりに強く「このステージではここをやっておかなければいけない」と捉えるものではなく、それぞれに合わせながらやっていく形です。表のデザインは要検討します。「親としては横にやっていく」ではなく「縦に見てやっていく」とが大切で、横に見て育っていく

ように見えてしまう部分を修正しました。

(委員長) 縦にみていきましょうということ。

(柘植委員) 「支援する側」は誰の事ですか。

(事務局) 行政だけでなく、地域、子ども以外の人、子どもの周りの人、子どもにかかわるすべての人を指しています。

(高草委員) 「こんな親になれたらいいな」というタイトルは押し付けているような表現ではないでしょうか。

(柘植委員) 表の一番下だけ「推進する、促進する」とあり疑問を感じます。それよりも「応援するとか支援する」にした方がいいような気がします。

(山内委員) 「子ども、我が子」「良さ、よさ」の表記を統一してほしいです。

(委員長) 「育児」「子育て」も気になります。

(副委員長) 恵那は、「親育ち」「子育て」でいきたいです。

(事務局) 先ほど、高草委員が「こんな親になれたらいいな」という表現が気になるということでしたが、いかがでしょうか。

(高草委員) 気にかかります。違う表現があれば。

(委員長) 以前は「親として」ということでしたが。

(高草委員) 「親として」もちょっと。押し付けられている感じがします。

(田口委員) 親になること前提と受け取れます。大人が大切にしていなければならないことであり、親に縛ってしまうのはどうかと思います。支援する側が親とは限りません。「多様」となっていると知っているのに「親と子」というモデルになっています。今は本当にひとり親やステップファミリーと家族のカタチもいろいろあるのに縛ってしまってもよいでしょうか。

(高草委員) 苦労して作ってくださっているのはよく分かります。

(委員長) やわらかい表現にはなっていますが、押し付けない受け止めやすい表現にしましょう。

(相原委員) 「 」はいりますか。大切にする願う姿と同様に「・」での表現にしてはどうでしょうか。

(委員長) 話し合った内容がよく表われ、ずいぶん柔らかくなりました。「なれたらいいな」は、その裏にあることをさらに柔らかくしていけるといいですね。

(相原委員) すべての時期に対して笑顔が大切、というところも同様の思いが含まれますね。

(委員長) 策定部会は今のような内容で出せそうでしょうか。

(事務局) 大丈夫です。

(委員長) では、最後のページ、ネットワークの構築についてです。

(相原委員) 大井の青少年の会議に出ると、自治会、社会福祉協議会などから参加していてワークショップの中で地区の子どもの話が出ます。民生委員・主任児童委員との関わりはありませんか。

(副委員長) 大事かもしれませんね。

(山内委員) 「学校」が入りました。こども園の保護者会・学校の PTA も隣に書かれて

いるので「学校」の中にこども園も入れるといいのではないのでしょうか。

(柘植委員) 中野方で言えば「杵振り踊り」や「めれたばやし」などがあります。地歌舞伎など地元の伝統文化は大人がすごく関わっています。入れなくてもよいのでしょうか。

(田口委員) 地域学校協働本部に含めてもいいのではないのでしょうか。

(委員長) そういうものも入れていくともものすごい数になってしまいます。例えば読み聞かせは地域学校協働活動になるのか PTA になるのか。「親育ち」としては間違っていないがもっとあるということになります。どうしていくとよいのでしょうか。

(相原委員) 「社会全体で連携し…」の部分の恵那市の様子がわかるとよいです。地域学校協働本部も認知されないところがあるので出したのかなと思いました。

(副委員長) 地域それぞれで色々な活動をしています。読み聞かせと表記すると限定的な活動になるので、PTA などに入れ込んで「その他」というものを作るのがよいと思います。

(委員長) それを土台に位置付けた柱のように建てる構図などいろいろと考えてみてはどうでしょうか。主任児童委員や家庭教育学級などでこの学びのひろばに来て、見学したりや講演を聞いたりして「子育ての参考になった」につなげていけるとよいですね。今日はたくさん意見が出て、みんなで作っているという感があり、大変ありがたかったです。

(副委員長) 策定部会でもこのような話し合いをしていただきました。今日もそのようにできてありがたいです。

(委員長) 次の策定部会では各課からの部会員にも伝えて、一緒になって考えてもらいます。今日はこのページまでの審議とします。次の審議は、12月11日の策定部会に返して1月14日に再審議をし、そのうえでパブリックコメントや議会に出せるものを作っていきます。

県から冊子原稿の執筆依頼が恵那市に来ています。委員長・副委員長・事務局に任せてもらえますでしょうか。→お願いします。

案①東海北陸大会発表の冊子から県の字数や形式に整えて出す

案②それを土台にして、学びのひろばを県下へ広める形に整えて出す

のどちらかでまとめようと考えています。以上で、議題1, 2は終了します。

(事務局) ありがとうございます。たくさんのご意見ありがとうございました。中身を濃いものにして、部会、委員会にはかかっていきたいと思えます。引き続きよろしくお願いします。

4. その他

- ・東海北陸社会教育研究大会岐阜大会の報告について

日時 10月3日(金)

会場 ココロかさなるCCNセンター(瑞穂市)

(事務局) 参加された皆様より感想をお願いします。

(相原委員) 「学び合う、提案する、行動する社会教育委員になる」というインパクトを伝えてられたかと思えます。会場の皆様から「みんな恵那を愛しているんだね」と言

われた言葉が印象的でした。

（山内委員）発表してよかったと思います。嘘のない、自分たちがやってきたことを伝えられました。

（委員長）故林先生と一緒にこの会がやってきた2年分の財産で発表ができました。

（副委員長）JL 育成の発表などがあつたが、リーダーというか JL を育てる人、リーダーのやる気や熱意で左右されるということを実感しました。引っ張る人や担当者の力は大きいと思います。

5. 佐藤一斎學びのひろば視察研修

6. 閉会

（副委員長）説明を聞くばかりの会議から進歩して、たくさんの意見をもとにみんなで考え、みんなの思いや言葉が入って、作成している会議になってうれしいです。今日の意見を伝えてさらに話し合いを進めてきたいと思います。